

ヴェリタス学習会通信 63



予定表カレンダー →

令和4年6月の予定

- ・月曜日 6月6・13・20・27日 大安公民館1階研修室または視聴覚室 18:30~21:00
- ・水曜日 6月1・8・15・22・29日 **ヴェリタス事務局** 18:30~21:00
- ・木曜日 6月2・9・16・23・30日 員弁老人福祉センター1階会議室3 18:00~20:30
- ・金曜日 6月3・10・17・24日 北勢福祉センター2階小会議室 18:30~21:00

定期利用者がいなくなったので、必要となるまで、藤原文化センターは休止とします。**水曜日はヴェリタス事務局**で開会します。

多くの学校で期末試験が予定されているため、土・日の昼間などでもできるだけ協力いたします。6月1日（水）より、員弁老人福祉センターの土・日利用が可能となりました。ヴェリタス事務局とあわせて、活用してください。

連絡先

ヴェリタス学習会担当まつみやの携帯電話番号：090-7696-0189（+メッセージも可能）

メールアドレス：npooveritas@gmail.com

LINE ID：m9s0bay（4文字目は数字のゼロです）

Facebookの「松宮 卓」に友達申請していただければ **Messenger** が使えます。

メールや **LINE** 登録をしていただいた方には、それを利用して休会連絡を行います。手数料削減協力のため、できる限りご登録ください。**LINE** を利用して、宿題等の画像を送ってくる子もいます。自分でできるところまでやって送ってもらうと、効果的な返信ができます。



Zoomなどの会議ツールを利用しませんか

今後、さらに利用が広がる **Zoom** クラウドミーティングや **Skype**, **Facetime**, **Google Meet** などを利用して学習しませんか。興味のある方は、ご相談ください。

あかさたなはまやらわ

あいうえお かきくけこ さしすせそ たちつと なにぬねの はひふへほ まみむめも ……ん



日本語の文字のほとんどは、「子音+母音」でできています。日本語の五十音図は、縦に母音の **a, i, u, e, o** を並べ、横に子音なし、**k, s, t, n, h, m, y, r, w** を並べて組み合わせると成立します。ローマ字を習うとよくわかります。

アカヤサタナラハマワ

このシステムができたのは、**1093**年に明覚上人が著した『反音作法（はんおんさほう）』とされています。ただし、子音の方の順番は、子音なし、**k, y, s, t, n, r, h, m, w** となっていました。（女性はひらがなでしたが、僧侶はきょうお経にカタカナでフリガナをつけたので、カタカナを使います）ヤ行とラ行が現在の使っている五十音図の途中に割り込んでいます。

これはどのような順で決めたのでしょうか。

最初のア行ですが、これは母音だけの行なので特別扱いです。母音は「のどの奥の声帯」と「口」の開け方で音を出します。



カ行から子音が入ります。**k** は口の奥の方から空気を押し出すように発音していませんか。次のヤ行も奥の方から出ていますが、カ行よりも前から空気を出していませんか。サ行になると舌の先よりちょっと奥と、上あごの摩擦を利用して音を出しています。

タ行は、舌先と上の前歯を使っています。ナ行も同様です。使っている部位が少しずつ口の奥の方から前の方に移ってきていますね。そういう順番なのです。マ行やワ行に至っては、唇で音を作っています。

ヤ行とラ行が現在の位置になったのは、室町時代のことで、インドのサンスクリットという言語の研究が、ラテン語の文字の順を考慮していたためです。



「はひふへほ」は「はひふへほ」ではなかった

ハ行については、話を避けてきたのですが、「アカヤサタナラハマワ」という口の奥から前方の順では、唇の「マワ」の前にあります。ハ行は口の奥から出る音なので理屈に合いません。しかし、ご心配なく。これであっていたのです。

実は、平安時代までの「はひふへほ」は「ぱびぶべほ」と発音されていたとされています。「ぱびぶべほ」は唇の音です。マ行やワ行と同じだったのです。

五十音の右上に丸がつく半濁音があるのは、「ぱびぶべほ」だけです。元々日本語にそれがあったからです。

「ぱびぶべほ」と発音されていた「はひふへほ」は、平安時代に「ファフィフフェフォ」という発音に変わります。山上憶良（やまのうへのおくら）は、奈良時代の人なので「やまのうべのおくら」と呼ばれていたのでしょう。平安末期の人は彼のことを「やまのうふえのおくら」と呼んでいたでしょう。語の途中の「ふえ」は言いにくいので「え」になります。室町時代になると「やまのうえのおくら」になります。現代仮名遣いでは、読みと一致します。川（かは）も「かば」「かふぁ」「かわ」と変化します。

仮名遣いの変化しなかったのが、「憶良らは・・・」の「は」です。「おくららば」「おくららふぁ」「おくららわ」と読みは変化しましたが、表記は「わ」とならず「は」のままです。

戦後、現代仮名遣いが決められたときに、発音通りに書くことが原則になったのですが、助詞の「は」「へ」「を」は例外としてそのまま使うことになりました。「(×) 東京え行く」「(○) 東京へ行く」「(×) たこ焼きお食べる」「(○) たこ焼きを食べる」。憶良らは今はまか罷らむ子泣くらむそれぞれの母も我を待つらむそ 山上憶良